

「市長と語ろう！」 立川市老人クラブ連合会理事会【概要】

平成30年2月6日（火）

14時30分～16時

柴崎福祉会館

1 開会の挨拶

（立川市老人クラブ連合会会長）

今日は市長、どうもありがとうございます。いつも私たちのために、市長自らがご配慮くださっていることについて、本当に心から感謝申し上げます。

私たち老人会は、自助、共助、公助、という3つの柱に支えられております。

自助については「伸ばそう健康寿命」ということで、諸活動を皆様とともに努めております。共助といたしましては、地域社会を支える担い手へという私たちのモットーでございしますが、地域にひとり老人が年々増えてきております。これについて私たちは友愛活動を展開しながら仲間をしっかりと守っていこうと頑張っております。しかし、この2つは公助に大きく支えられて初めて、大きな花を咲かしているのではないかと考えております。

市長に私たちの感謝を申し上げますが、それとともに、今後変わらない市長のバックアップをいただいて、老人会がますます市民の皆様のお役に立つ、喜んでいただけるように発展していけるよう、頑張っていくことを市長にお誓いして、今日はよろしく願いをいたします。

（市長）

こんにちは。今日は、高齢世代の方々を中心とした皆様方と直接意見交換をする中で、立川の将来計画、どういう形で持っていけたらいいかということの糧にさせていただきたいと思っています。

今、立川は、第4次長期総合計画の3年目に入りました。過去3回の長期総合計画は15年の期間を一つのスパンと定めて、その計画にのっとっていましたが、時代の流れや変化にあわせて機動力を持って展開していくためには、15年は長過ぎるということで、10年計画にしました。それでもＩＣやパソコンを中心とした事務の効率化、情報伝達などのスピードを考えると、10年でも長過ぎる部分もあるだろうということで、5年目で見直すことになりました。既に来年度から見直しの一部研究に入ろうとしているところでございます。

おかげさまで立川市の人口は増加傾向にあります。そうは言いながらも、大きな流れの中では、日本全体で人口が減っていますから、立川だけが頑張って人口を増やすわけにはいきません。また、市民の皆さんの価値観が今までとは随分変わりました。今の高齢者の方は、外へ出て、活発にいろいろな活動をしている時代になってきました。

先ほど会長から、もっと高齢社会へのバックアップというお話がございましたけれども、本来ならばわかりましたと返事をしたいところですが、10年先、20年先をしっかりと見て、行政を送っていかなければならないという責任が市長にはあります。体がしっかりと動く、頭もしっかりと切れていくという方々に対しては、ぜひ社会参加をして、社会の一員として活躍をしていただきたいと思います。

私の年齢も72歳ですから老人会世代です。10年以上前から名簿づくりや会計の決算書など、地域の老人会のお手伝いをしてきました。今は西砂長寿会の会計係をしまして、

毎年、決算書をつくり、市の清水庄平あてに提出をしています。みなさんと同じような価値観は共有できると思います。どうぞ忌憚のないご意見やご提案をいただいて、今度の長期計画の見直し、あるいは次の第5次の長期総合計画について、ヒントを頂戴できればありがたいと思っております。

限られた時間でございます。効率よくこの会を進めていただけますようにご協力をお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

広報たちかわに掲載された市職員の給与についてです。立川市の予算は700億円で、東京都の予算は約13兆円です。しかし、立川市職員は、東京都の初任給も、国の初任給もみんな同じです。700億円の年間予算のところで、13兆円のところで、なぜ同じ給与にしないといけないのですか。それを削って、小学生や中学生の給食費の無償化に向けたほうがいいと思います。滋賀県の長浜市においては既に実行されております。

なぜ小学校、中学校の生徒の無償化をするかということは、管理栄養士がついて、栄養の高いものを食べさせているわけです。皆さん方が退職した後、今の小学生や中学生たちが皆さん方の年金を支えるのです。だから、給与水準を低く見積もって、そのお金を給食費の無償化に向けてもらいたいんです。初任給について、大卒は18万2,700円、高卒は14万4,600円、東京都はそれこそ18万2,700円、高卒は14万4,600円です。なぜ、東京都の職員の給料と、国家公務員の給料と、立川市の給料がほとんど変わらないのでしょうか。

(市長)

職員給与の関係ですが、初任給はそうようになります。ただ、その後の給与の伸び率、あるいは手当を考えると、国家公務員や東京都のような立川よりも大きな団体の職員の給与は上がっております。基本的な考え方は、仕事内容のレベルは同じである、ということであります。これはもともと、公務員制度が始まった当初からの考えでありますから、私は、立川の職員が劣っている、東京都の職員に比べて働きが悪いとは思っておりません。

私は市長になってこの10年間で職員を300人減らしました。そういう理解も職員の皆さんにいただきながら、少ない職員で最大の効果を上げるために、他団体と比較をしてもっと高くする、低くするというわけではなく、それに見合った額の給料を与えるべきという考えであります。

(参加者)

立川の職員労働組合は、強いですか、弱いですか。

(市長)

強いか弱いかは、他の団体のことはわかりません。ただ毎年、もっと給料を上げてほしいというお話があるようですが、ない袖は振れないということで、それほど職員組合の要求が通ることはほとんどないと思っています。

(参加者)

国の予算と東京都の予算と、同じ予算ならいいですが、なぜ立川市と東京都と国の職員の給与のスタートラインが同じなのでしょう。

(市長)

私は、立川市の職員は一生懸命やってもらっていると思います。例えば、まちづくりに

おいても、立川が多摩でナンバーワンのにぎわいや繁栄を誇っているのは、市民の皆さんのご協力はもちろんですが、職員の大きな働きの結果であると評価しています。したがって、私は立川の職員が今、高過ぎる給料をもらっているとは考えておりません。

（参加者）

市長にお願いします。錦町の1丁目の南側には公園がありません。町会の盆踊りは、オニ公園でやっています。1丁目は子どもが多いので、ぜひとも公園をつくっていただきたいと思います。旧職員会館の空き地等を開放していただけないでしょうか。

（市長）

共済病院北側近辺の古い民家を、事務所として使っていました。南武線が高架化になる予定で、それに伴い、駅周辺の整備をやり直す話がありますので、その中でどうなるかはこれからの課題です。子ども未来センターの広場を使うという手もあるのではないかと思います。いずれにしても、あの地区に子ども未来センター並みの公園をつくるというのは、至難の業でありますので、この席でお約束をするというわけにはまいりません。ぜひ、別の考え方として、すぐそばに安全で広さも十分な公園がありますので、そちらを使うという考えを持っていただければと思います。

（参加者）

立川市内において格差が発生しているのではないかと思います。バランスよくやっているとは思いますが、例えば、羽衣町のバスの回数が非常に少なくなっています。年寄りが移動するのに、今まで公共の乗り物の立川バスを頼りにしていましたが、最近コースが変わって少なくなっていると困っているようです。

南武線の高架の話が出ましたが、これを機にモノレールを通して、国立から東村山へ行っていくなど、何か大きな動きを他市と共同でやるようなことを考えてほしいです。立川だけでなく、多摩そのものを活性化していく観点でやっていただきたいです。

（市長）

モノレールは、多摩地域全体に約90キロの輪を描くという計画があります。現在、立川駅を中心に南北16キロだけ整備されています。東大和から新青梅街道を通って箱根ヶ崎へ行き、そこから八王子を通して町田に出る。そして立川から南の多摩センターへ行く線は、あのまま南へ進み町田へ出る。ですから、北と南へ延伸した線は、町田でぶつかるようになります。今、東大和から箱根ヶ崎までの延伸に取りかかっています。新青梅街道の上を通る計画なのですが、モノレールを作るのは狭すぎるので、今、土地の買収に取りかかっており、それだけであと20年ほどかかると言われています。ですから、モノレールを網の目のように立川市内にというのは、少し難しい状況にあります。

（総合政策部長）

交通、バスの便のことを捉えて格差というお話がありました。くるりんバスについては、ここでルート変更をいたしまして、確かに乗降客が少ないという状況がございます。所管の部署では、今、試行的にこのルートで行っております。もう少し様子を見ながら、ご不便が多いというお声や、あるいは実際にお乗りになる方が少ないようでしたら、ルートの変更も踏まえて検討をしていくという状況ですので、もう少しお時間をいただければと思います。

格差というお話ですけれども、お年寄りと若者、お子さんという年齢の格差もあれば、男性と女性の格差、あるいは地域の格差というように様々な格差があります。市の計画では、立川市民については皆さんなるべく平等な形で住んでいただけることが、一番の理想です。実際に総合計画をつくるときには、それぞれの地域のお声を聞く、あるいはワークショップという形で、まちづくりを考える作業も行います。その中で、皆様のお声をたくさん聞きながら、格差をなくすようにしていきたいと思います。

立川市は、今年の4月1日から「障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」を施行します。これは、障害という言葉はございますけれども、理念としては、どんな方も同じような形で立川に住み続けることができるまちを目指すという理念条例です。そういう意識を持って、我々はまちづくりに取り組んでおりますので、ご理解いただければと思います。

広い視野でというお話をいただきましたが、立川市は全ての行政運営が18万人の市域内で完結するとは思っていません。広域連携サミットで言えば、立川市の周辺8市をあわせると約100万人になります。約100万人の人口の圏域の中で、さまざまな行政運営をするのが一番効率的であり、格差も少なくなると考えています。広い視野、あるいは小さな虫の目で、いろいろな視点でものを考えながらまちづくりをしていきたいと思います。地域の声をどんどん出していただくことで、行政に反映することができますので、ぜひこれからもそういったお声を挙げていただければと思います。

（参加者）

今、格差というお話の中で、障害者の方もというのが出ましたので、和式のトイレを洋式のトイレに変えていただければと思っております。福祉会館などに来たときに、少し足を悪くすると、なかなか立てません。和式だとしても何か持つ手を付けてほしいです。消防訓練の時にお年寄りの方が和式で立てなくなり、トイレから出られなくなったため、消防署員の方が上から入って、救助していただいたことがありますので、なるべく和式から洋式にかえていただければと思っております。

市報をいつも読ませていただいております。これから高齢者が増えていきますので、病気になるときに賢く自分が対処できる知恵みたいなものを、1コマでもいいですから書いておいていただけるととても助かります。少しずついいですから身につけて、医療費を少しでも安くできるようにできればいいかなと思っております。

（市長）

市の斎場も、トイレを改修して洋式トイレに変えました。また、学校を中心に洋式トイレに変えています。そのほかの公共施設はまだ手がついておりません。結構大がかりな工事が必要なため、どうしても時間がかかってしまいます。ご提案がありましたように、まずは持ち手をつけて、それから洋式トイレに取りかえていく。大変いいアイデアをいただきましたので、これは早速、検討して実行に移したいと思います。

市報につきましては、皆さんがサークルなどで体力をつける、いろいろな知恵を身につけようという取り組みをしています。来年度予算では、ウォーキングのポイント制度を取り入れます。ウォーキングをして1日に歩いた歩数を申告していただければ、その申告によってポイントを付与し、一定のポイントが貯まると何かと引きかえができる、励みになるような施策も取り入れる予定です。シリーズもので高齢者向けがあるといいかもしれません。

ん。

(保健医療担当部長)

高齢者の方は地域で体操や居場所づくりなど、様々な活動をしていただいている方たちが大変多くいらっしゃいます。皆様の老人クラブでも大変活発に活動いただいて、それが市民の健康づくりに大きく寄与していただいていると思っております。皆様の地域の活動を、広報でも紹介していきたいと思ひますし、また地域ごとに、地域包括支援センターで出しております「まちねっと」という広報誌でも、いろいろと高齢者の方に関する情報はお届けしております。

介護保険の制度が3年に1回変わって、来年度はまた新しい3年の期に入るものですから、ここで介護保険についてはしおりをお届けする予定でございます。広報の特集の記事も予定しておりますので、あわせてご覧いただければと思います。

(参加者)

栄町の1丁目から直接、立川駅に通じる交通機関がありません。立川市役所に行く場合には、まずバスで国立から立川へ出まして、それからバスで行きます。ここにくるりんバスを通していただけないでしょうか。

(総合政策部長)

くるりんバスはルートを変更しましたが、あまり好評ではなく、利用される方も減りました。今のルートがなかなか厳しい状況ですので、担当としては交通不便地域の方になるべく使っていただけるようなバスのルートの再編が必要だと考えています。ただ、試行的に状況を見ながら、皆様のお声をいただきながら、新しいルートを決めていくことで、なるべく多くの皆さんにご利用いただけるルートの再編を考えていますので、もう少し待っていただければと思います。

今年も何回かタウンミーティングを開催しておりますが、くるりんバスについてはどこの地域に行っても市民の皆さんからご指摘いただきます。これは行政として大きな課題と考えておりますので、今の段階では検討中ということでご理解をいただければと思います。

(参加者)

くるりんバスは黒字なのですか。

(総合政策部長)

くるりんバスについては赤字です。なぜ赤字かというと、いわゆる交通不便地域にまわすバスですので、必ずしもいつも満員のバスを運営できるとは限らないということです。

(参加者)

市の行政の中で、老人クラブの位置づけについて疑問に思うことがあります。一つは、若葉会館を活動の主な場所にしていますが、年を経るにつれて、皆さんが若葉会館まで歩いていけないという状況が出てきました。地域には空き家が増えてきておりますので、空き家を活動場所として使うことはできないでしょうか。

以前に自治会長をやっていたときに、自治会で使う建物と不動産に関しては、固定資産税の減免措置がありました。市役所へ行き、老人クラブにもそういう措置は考えられないのかと尋ねましたら、検討していただいた後、市長からお手紙をいただきました。とても丁寧な手紙をいただいたのですが、老人クラブは公益性と公共性に欠けるとありました。

現時点ではそういうことは考えていないというお返事をいただいたわけですから、ある職員の方からは、老人クラブは仲良しクラブですからと言われました。確かにそういう面もあると思いますが、日々、老人クラブの活動をやっているほうからすると、かなりの公益性や公共性もあると思います。地域に高齢者は非常に多く、老人クラブは地域を支えているという事実もあるものですから、市長に聞いていただきたいと思います。

もう一つは、配偶者を亡くされた男の方が増えてきています。食事也非常に偏り、苦勞されていることが増えてきましたので、その方たちを集めて若葉児童館で、子供たちが来ない午前中からお昼にかけて、料理教室をやろうと考えました。市の担当者の方とお話をしたら、児童館なので子供が使う、食事を主とされる団体には貸せないと言われました。子供たちと一緒に食事をつくるのならお貸しできますと言われましたが、将来的には考えられますが、いきなりそれではハードルが高いと思います。

老人クラブが仲良しクラブだと言われるのは、ある意味では最もだと思います。ただ、地域の老人たちができるだけ元気で長生きできて、自分で生活ができることを支えたいと考えておりますので、市の行政もそういう立場に立っていただければ、歩み寄って道が開けるのではないかと考えております。

(市長)

老人クラブの位置づけ、あるいは児童館利用につきましても、両方とも根っこは、老人会が任意の団体であるからだと思います。例えば児童館は、補助金などをもらって建てておりますので、法律の関係から、子供たち以外の利用はハードルが高いです。

ただ、空き家利用の件に関しては、研究をしっかりとする余地はあると思います。防火、防犯、管理の問題など、様々な法律的な問題をクリアしてからでないと、公式にお返事をするわけにはいきませんので、今のご提案に関しましては、預からせていただきたいと思います。

私も冒頭で申し上げました、70代ではまだまだぴんぴんしています。できるだけ自宅から外へ出て、刺激を受けながら切磋琢磨することこそが健康の秘訣につながると思っています。そういう観点からも、課題を抽出し、あるいはその課題をどうすればクリアできるかということを研究、議論していきたいと思っています。

(参加者)

年寄りが市のために、子供たちのためにやれることはたくさんあると思います。能力のある老人がたくさんいらっしゃいますので、この能力を使わない手はないと、日ごろ思っています。私は外資の航空会社に勤めておりましたので、それなりに英語には自信がありましたので、子供たちに英語を教えていました。やはり老人の知恵を使わない手はないと思います。優秀な方がたくさんいらっしゃいますので、ぜひそのような方をもう一度表に出してあげて、使う手があると考えております。ぜひ老人パワーを再利用する、そういう観点を持っていただきたいと思います。

(市長)

市内の各小学校で、お年寄りの方がボランティアで子供たちを遊ばせてくれる、勉強をしてくれるという、放課後子ども教室をやっています。熱心な町会ですと年間200日くらい活動をしているところから、年間30日ほどのところもありますが、広報等で市民の皆さんに周知をし、ご参加いただきたいと思います。

(参加者)

毎月1回柴崎福祉会館を利用させていただいています。崖がありなかなか歩いてはいけませんので、専用バスが送迎してくださり、非常に助かっています。おかげさまで利用度がどんどん上がっております。これからも続けていただきたいと思います。

(市長)

立川で唯一の崖線が通っているところが、富士見と柴崎のところですよ。以前は崖線のところへエスカレーターを付けてほしいというお話をお受けしたことがありましたが、なかなか難しく実現できていません。バスもおっしゃるように便利なものですから、今後も充実できるような方向で考えています。

(参加者)

錦町の芸能大会は、錦町の学習館でやっています。いつもカラオケの機械がなく、カセットテープを持ってやっています。学習館にカラオケは付けられないとお聞きしているのですが、どうなのでしょう。

(総合政策部長)

学習館は恐らくカラオケ施設はないと思います。学習等供用施設にはおそらくカラオケ施設があると思います。いろいろと規則等が決まっています、例えば飲食がダメ、お酒はダメだとか、施設によってはそういう形があります。

これからお年寄りの方が非常に増えるという中で、今、公共施設の学習館や児童館など、いろいろな施設がありますけれども、今の使い方のままでいいのかという検討に入りました。例えば学習館と学習等供用施設は、同じような施設にして利用ができればいい、あるいは逆に、完全に機能を別にした方がいい、両方とも老朽化していたら一つにして、機能が合わさった形で使える施設にした方がいいのかなど、このような公共施設の再編計画を来年度から動かす予定でございます。これからお年寄りが増える中で、お年寄りの方が楽しんでいただける、有効に利用していただけるような施設のあり方を検討しているところでございます。

(参加者)

カラオケセットができなければ、譜面台だけでも置かしてもらいたいです。

(総合政策部長)

個別の課題になりますので、後ほど担当に話をしておきます。

(参加者)

私の周りに、30、40代の独身の男女がいるのですが、何とかならないでしょうか。収入が少ない、近くに仕事場がないというのもあります。市は若者の婚活など、何か方策はありますか。

(総合政策部長)

農業者の若者が、出会いがなく、結婚がなかなかできないということで、農業者の若者と、女性の方がお見合いをする機会を設けています。晩婚、あるいは未婚の若者が多いといったことは、社会問題全体の課題ですので、これはもう立川市長だけの力では何ともできません。国全体で考えていく課題ではないかと思っております。

(参加者)

くるりんバスの話ですが、砂川地域は東西に走る交通が少ないです。市役所が移転しましたが、くるりんバスの変更のときは、値段は上がっても良いので、ぜひ直接市役所へ行くように考えてほしいです。将来、市役所に中心が来つつあるということを頭に置いていただいて、そこへ人を運ぶ、便利になるようなコースを考えてほしいと思います。

(総合政策部長)

立川市役所が錦町から泉町へ移り、立川市全体の重心が変わり、それによって交通の流れも変わってきています。くるりんバスや、民間のバス、他の交通機関も含めて、交通機関のあり方を考えていかなければいけないという課題意識は持っています。

ただ、なかなか立川市だけではどうにもできませんので、交通事業者等との協議も重ねながら、できるところから進めていきます。当面、立川市単独の考え方でできるのはくるりんバスのルート変更ですから、実証実験を行いながら、より良いルートを探していくという考えです。

(参加者)

市報のことについてです。次回か次々回くらいの市報で、人口構成を示してください。昔はピラミッド型でしたが、逆ピラミッドになっていると思います。青は男性、赤が女性という人口構成を図で示してください。

(総合政策部長)

次回、次々回くらいの広報にというのは、記事の予定が入っておりますので難しいです。全国的に人口減少社会、逆ピラミッドということで、しかもお年寄りの人口が増えて、生産年齢人口の方が減っているということもございます。そういった人口に対するさまざまな課題意識がございまして、2年ほど前にたちかわ創生総合戦略をつくりました。今後の立川市の人口動向を踏まえた一番の課題は、25歳から39歳のいわゆるお子さんを産んで育てる年代の方を増やしていく、市の中に転入させていくことです。そうしないと、45年後には、今の16万の人口が12万台ぐらいになってしまいます。何とか25歳から39歳の年齢層を増やすことで、14万くらいにとどめるという計画を立てています。

こういう計画は策定をした平成27年度にお知らせをしています、また時期を見まして、市民の皆様にご覧いただく機会という意味合いもありますので、何らかの形で記事にしていきたいと思っています。

(参加者)

立川市の高齢者について、80歳以上で車の運転をしている人は何人いますか。

(市長)

わかりません。

(参加者)

以前、市内にある病院の敷地内で、高齢者の自動車運転による死亡事故がありました。あのようなことがありますので、80歳以上の方が自家用車を運転することについて、規制してもらいたいと思います。

3 閉会の挨拶

(市長)

今日は大勢の皆様から多くのご発言をいただきまして、大変ありがとうございました。幾つか大変興味深いといいましょうか、ぜひ研究したい、取り上げてみたいご提案もございました。本当にありがとうございました。

こういう機会を持ちながら、お互いに地域社会の中でゆったりと健康に暮らせるような社会づくりを進めてまいりたいと考えております。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。